

「勝手にくま鉄検定」 **おまけ編2（適語補充）** に挑戦しましょう！

1 次の文は、2019年（令和元年）9月27日の人吉新聞に掲載されたくま川鉄道開業30周年公告における永江友二社長の挨拶文です。

【ア】から【コ】の中に入る適切な語句等を、それぞれ下の選択肢の①から④の中から選んで、解答欄に記号で答えてください。

【ア】年（大正13年）に人吉～湯前線が開業され95年。鉄道は人吉球磨の経済の発展に大きく寄与してきました。しかしながら、高度成長とともに自動車が普及し鉄道から車へ状況は変化していきました。この【イ】による鉄道利用者の減少は鉄道存続に大きく影響してしまうことになります。高度成長後、バブルも崩壊し人口減少社会が進むことを危惧した国の施策により、この湯前線は【ウ】路線と認定され国より廃線を通告されたことで、【エ】方式の鉄道会社「くま川鉄道」が設立されたのでした。

平成元年10月1日に運行が開始され今年で30年。設立時から多くの方々に御協力をいただき今日を迎えたことを感謝致します。

ただ、この30年の間に大きく変わってしまったことがあります。それは利用客がどんどん減っていることです。沿線にあった【オ】つの高校の通学手段として【エ】鉄道を開業致しましたが、今年3月に一つの高校が閉校になりました。弊社の一番の運賃収入である【カ】は少子化とともに減少していきます。通学利用者は開業当時からすると【キ】し、運賃収入も激減し経常収支の【ウ】は増える一方です。くま川鉄道存続のためには【ク】などと呼び込み外貨を稼ぎ、関連商品などを企画販売していくことは勿論なのですが、やはり地元のみなさまに利用していただくことが大切なのではないかと思っています。【ケ】に一度でいいですから是非利用していただき、この地に鉄道の【コ】を残して欲しいと願います。

ア ①1923 ②1924 ③1925 ④1926

イ ①E-列バ-シヨ ②Jマ-ツリバ-シヨ ③Jリユ-列バ-シヨ ④グロ-バリバ-シヨ

ウ ①青字 ②黒字 ③白字 ④赤字

エ ①第1セクター ②第2セクター ③第3セクター ④第4セクター

オ ①4 ②5 ③6 ④7

カ ①往復割引切符 ②乗車切符 ③通学定期 ④一日乗車券

キ ①微減 ②半減 ③漸減 ④激減

ク ①登山客 ②観光客 ③花見客 ④参拝客

ケ ①一月 ②半年 ③一年 ④三年

コ ①響き ②温もり ③哀愁 ④輝き

解答欄

ア		イ		ウ		エ		オ	
カ		キ		ク		ケ		コ	

2 次の文は、開業30周年に当たって発行された記念冊子「地域とともに30年 くま川鉄道」の中にある「これからのくま川鉄道をどう思っているの？」に対する永江社長の見解です。

【ア】から【コ】の中に適切な語句等を入れて、文を完成させてください。
選択肢はありませんので、答えを直接、解答欄に書き込んでください。

この人吉球磨には、まだ必要な交通機関であること。存続させなければこの地の経済の【ア】に拍車がかかるということ。これを皆さんにわかってほしいです。【イ】・人口減少がすすんでいく今、地方は【ア】していくばかりというのは誰でもわかっていることですが、公共交通が無くなった場合、その土地の【ア】は著しく進むのです。

普段使っていない公共交通が今更無くなってもなにも変わらないと思われているのかもしれませんがね。例えば、人吉球磨だと【ウ】に通う交通機関が無くなった場合、親が子どもたちを送迎しなければなりません。それが可能であればいいのですが、不可能な場合は【ウ】に通えなくなるため、中学を卒業したら寮や下宿住まいで地元を離れなければなりません。今まで【ウ】生がいた村や町も、中学生までしかいなくなるんです。それどころか、家族みんなでその地を離れる人も出てくるでしょう。人口減少がその土地の【ア】に拍車をかけることになるのです。沿線に【ウ】がある以上、【エ】できる鉄道はまだ必要なのです。

ただし、鉄道を維持していくためには巨額な費用がかかります。【イ】で【ウ】生の利用者が減っていくため、運賃収入が減り【オ】額が増えていきます。【カ】で運営している場合、その【オ】は皆様の【キ】で補填されるのです。教育や医療などに使われるべき【キ】が【オ】補填に使われないよう、できるだけ多くの方々に利用していただきたいと思っています。また、【ク】などよそからのお客様にも乗っていただきたいのですが、そのためには【ケ】（沿線自治体及び沿線住民）の協力は不可欠です。どうか、くま川鉄道存続のため、【ケ】の【ア】を少しでも歯止めをかけるため、一緒に考え力をお貸してください。皆様の協力無くしては存続は【コ】なのです。（以下略）

解答欄

ア		イ		ウ		エ		オ	
カ		キ		ク		ケ		コ	

3 次の文は、くま川鉄道公式ホームページ内の社長ブログにある「三セク鉄道の難しさ、もどかしさ…（2018年8月2日）」の記事の中からの引用です。

【ア】から【オ】の中に適切な語句等を入れて、文を完成させてください。
(【イ】は数字が入ります) 答えを直接、解答欄に書き込んでください。

バス転換廃線鉄道路線の回避のための三セク経営。地域によって出資が
【ア】・市・町・村と異なります。

くま鉄は、【イ】市町村の自治体が出資しています。実は全国40社加盟している三セク協議会の中で、38社は【ア】が出資しているのですが、くま鉄と南阿蘇鉄道の2社だけ【ア】の出資がない会社なんです。

熊本【ア】どお～した～～～

ちなみに肥薩おれんじ鉄道さんは越【ア】のため、熊本・鹿児島両【ア】から費用が出てます。。。くま鉄や南阿蘇に出資されなかったのは、設立当時いろいろあったんでしょうね・・・い言っても仕方がない。。。

でも、【ア】が絡むか絡まないかの違いは大きく、赤字補てん額を地元のみで負担するのか、【ア】からも少しいただけるのかによって地域の負担が変わってきますよね。地元、人吉・球磨地域住民も【ア】民なのです。設立当時、地域が【ア】にしっかり働きかければよかったんでしょうが、自分たちでやっていくという思いの表れだったのか・・・今となっては、赤字負担額も大きくなってきたので、地元だけでは厳しい状況であることは確かです。別に【ア】批判じゃなく、こうなんですよ～って話です。

くま鉄の経営には【イ】市町村長が取締役員になっていただいているのですが、【イ】人いると経営に関する考え方に違いがあり、なかなかやりづらい点が多々ありました。線路が自治体を通っているか、利用客の割合、利便性などによっても【イ】市町村の考え方は異なります。思い入れの違い。温度差ってやつです。

・・・(途中略)・・・やや愚痴っぽく書きましたが、これは私が社長に就任した当時の話で、この2年半、首長さん方に理解を求めるため会話を重ね、頭を下げ、ご提案していく中で考え方に変化があり、今は以前よりやりやすくやったことは付け足しておきます。今は経営を前向きに考えて頂くようになり、【ウ】のための議論をしていただいています。

鉄道【ウ】にはお金がかかり、赤字は経費が増えたのではなく【エ】・車社会などによる単純な売上げの低下によるものだと理解していただき、損失補てん額を減らすためには売上げを上げなければならない。沢山の利用客をどうやって増やすかと議論され始めたことは大変ありがたい事です。

やはり、30年前会社を立ち上げた当時の気持ちをブレずに、地域に残すと決めた以上【オ】を持って残していくことを考えてほしいと願っています。

【ウ】は地域の必要とされる利用者のため、地域の衰退を加速させないため、今いる社員の生活のためなのです。(以下略)

解答欄

ア		イ		ウ		エ		オ	
---	--	---	--	---	--	---	--	---	--

いかがでしたか？

それでは、「勝手にくま鉄検定」おまけ編2（適語補充）の正解です。

1

ア	②	イ	①	ウ	④	エ	③	オ	②
カ	③	キ	②	ク	②	ケ	③	コ	①

2

ア	衰退	イ	少子化	ウ	高校	エ	大量輸送	オ	赤字
カ	第三セクター	キ	税金	ク	観光客	ケ	地域	コ	不可能

3

ア	県	イ	10	ウ	存続	エ	少子化	オ	覚悟
---	---	---	----	---	----	---	-----	---	----

それぞれ、特に解説は不要と思いますが、2のアは「疲弊」、コは「困難」等の同じ意味をもつ言葉なら正解です。

いずれの文もくま川鉄道の現状と課題に対する社長の認識や経営あたったの覚悟など、社長の思いが色濃く滲み出ている文だと思いませんか？！

くま鉄検定の実施要項によると、特級では記述の問題も出題されるようです。記述がこのような適語補充なのかそれとも論述なのか不明ですが、もし后者なら、組織のトップである社長の思いを踏まえたうえで、自分自身の意見等を記述すると高得点が見込まれるような気がします。

これら3つの文、いずれもしっかり読み込んでおきましょう。